令和四年度
日南市読書感想文・読書感想画
コンクール入賞作品集
第十四集

主催　日南市教育委員会
協賛　株式会社ニチワ

はじめに

第十四回日南市読書感想文・読書感想画コンクールに応募してくれた児童・生徒のみなさん、本当にありがとうございました。

コロナ禍の中、たくさんの作品の応募があり、みなさんが日頃から本に親しんでいることをうれしく思いました。

本を読んで、本の世界に入ると、「どうしてだろう」「心が温かくなった」「私もこうなりたい」など、思ったり感じたりしたのではないでしょうか。そんないろんな感情や考えを素直な思いとして、感想文や感想画で表現しました。心動かされたこの一冊の本は、みなさんを心豊かにしてくれたと思います。

このコンクールを通して、みなさんが大切な本と出会うきっかけとなり、これからもたくさんの本を読んで健やかに成長することを心から願います。

終わりに、本コンクールを実施するにあたり、御協賛いただきました株式会社ニチワ様をはじめ、指導及び審査に際して多大な御尽力をいただきました学校関係者の皆様に対しまして、心からお礼申し上げます。

令和五年二月

日南市教育長　都甲　政文

読書感想文コンクール目次

【小学校一年生の部】

金賞　がんばれ、しげちゃん
大堂津小学校　落合　希光・・8

銀賞　がんばれ、マーくん
飫肥小学校　山田　迪奈・・・10

銅賞　「ざんねんないきものじてん」をよんだ
榎原小学校　三浦　心実・・・11

【小学校二年生の部】

金賞　いつまでも家ぞくだよ
飫肥小学校　坂元　伶名　・・13

銀賞　「けんかのきもち」を読んで
吾田小学校　宮本　翔空　・・15

銅賞　「すうがくでせかいをみるの」を読んで
北郷小中学校　甲田　優心・・16

入選　「つくしとおねえちゃん」
桜ヶ丘小学校　長友　翼　・・・18

入選　「からすのパンやさん」を読んで
油津小学校　竹内　彩愛　・・・19

【小学校三年生の部】

金賞　ぼくが考えたしあわせ
飫肥小学校　日髙　楓月・・・・21

銀賞　きみは、どこからやってきたの
東郷小中学校　古澤　圭羅・・・23

【小学校四年生の部】

金賞　「先生、感想文、書けません！」を読んで
桜ヶ丘小学校　丸太　大地・・・24

銀賞　「みんなのためいき図鑑」を読んで
北郷小中学校　甲田　迅　・・・26

銅賞　行動した者勝ち
飫肥小学校　山田　珠緒里　・・・28
入選　「関ケ原の合戦」を読んで
吾田小学校　加藤　公輝・・・・・29

【小学校五年生の部】

金賞　「捨てないパン屋の挑戦　しあわせのレシピ」を読んで
北郷小中学校　甲田　星南・・・31
銀賞　「子どものためのルールブック」を読んで
鵜戸小中学校　髙野　陽太郎・・33
銅賞　出会いで広がる世界
桜ヶ丘小学校　丸田　彩葉　・・35
入選　大切な命
榎原小学校　河野　華菜　・・・37
入選　「シートン」を読んで
南郷小学校　岩切　姫花　・・・38

【小学校六年生の部】

金賞　すぐにあきらめてしまう自分にさよならを
桜ヶ丘小学校　小杉　柚月・・・41
銀賞　夢に向かって
南郷小学校　土屋　瑛音　・・・43
銅賞　「カラフル」を読んで
鵜戸小中学校　中原　咲和・・・45
入選　ぼくの目標
吾田東小学校　後藤　大智　・・47
入選　「アンネ・フランク」を読んで
飫肥小学校　川添　佑珠　・・・49

【中学校の部】

金賞　一人前になること
　吾田中学校　三年　戎浦　真理花・51
銀賞　全ての事に感謝して
　飫肥中学校　二年　瀬戸山　璃音・54
銅賞　手紙から読み取れるもの
　飫肥中学校　一年　日髙　結奈・・58
入選　さよならドビュッシー
　吾田中学校　二年　竹下　希香・・61
入選　大事にすべきもの
　飫肥中学校　三年　川口　小春・・64

読書感想文の審査を終えて・・・・・・・・・68

読書感想画コンクール目次

【小学校一年生の部】・・・・・　71・72

金賞　ようかい村のわくわく夏休み
　桜ケ丘小学校　山口　稀子
銀賞　つきよのおんがくかい
　油津小学校　西田　彩
銅賞　ベッドのなかはきょうりゅうのくに
　油津小学校　藤丸　朝矢
入選　ようかい村のわくわく夏休み
　桜ケ丘小学校　猪俣　諒也
入選　にじいろのしまうま
　飫肥小学校　山田　迪奈

【小学校二年生の部】・・・・・・・・・・73・74
金賞　そらのきっさてん
　油津小学校　小田原　梨織
銀賞　銀河鉄道の夜
　吾田東小学校　吉元　春翔
銅賞　葉っぱにのって
　北郷小中学校　由地　恵大
入選　ともだちや
　鵜戸小中学校　前田　ひかり
入選　モグラのモーとグーとラーコ
　南郷小学校　下之門　紗和
【小学校三年生の部】・・・・・・・・・・75・76
金賞　ミスターワッフル！
　鵜戸小中学校　塚本　帆来
銀賞　ほら、ここにいるよ
　油津小学校　阪元　美礼
銅賞　やまたのおろち
　吾田東小学校　小倉　麻寿々
入選　ほら、ここにいるよ
　潟上小学校　谷口　生眞
入選　ほら、ここにいるよ
　吾田小学校　福嶋　桜香
【小学校四年生の部】・・・・・・・・・・77・78
金賞　象のいない動物園
　桜ヶ丘小学校　中島　香后
銀賞　銀河鉄道の夜
　東郷小中学校　山根　希心
銅賞　ほら、ここにいるよ
　油津小学校　甲斐　絢音

入選　しょうがっこうへいこう
大窪小学校　杉田　結愛
入選　おじいちゃんがおばけになったわけ
桜ヶ丘小学校　長友　愛莉
【小学校五年生の部】・・・・・・・・・79・80
金賞　妖怪コンビニでバイトはじめました
油津小学校　井上　心美
銀賞　わさびちゃんとひまわりの季節
飫肥小学校　髙田　玲緒奈
銅賞　幽霊屋敷貸します
北郷小中学校　松浦　希心
入選　モチモチの木
南郷小学校　河野　太一
入選　5分後に意外な結末
油津小学校　竹井　柚葉
【小学校六年生の部】・・・・・・・・・・・81・82
金賞　縄文の狼
油津小学校　田中　りこ
銀賞　3分後にゾッとする話
桜ヶ丘小学校　三浦　璃音
銅賞　怪盗パピヨン
吾田東小学校　安藤　楓真
入選　宇宙への夢、力いっぱい！
飫肥小学校　安藤　隆晃
入選　青いスタートライン
東郷小中学校　池田　柚希
読書感想画の審査を終えて・・・・・・・・83
審査員氏名一覧・・・・・・・・・・・・・85

読書感想文入賞作品

【小学校一年生の部】

《講　評》

本をえらんだりゆうやこころにのこったばめんがしっかりとかかれています。じぶんの思いやかんがえを本のないようとつなげることができていて、とてもかんしんしました。これからもたくさん本にしたしみ、どくしょの楽しさをあじわってほしいと思います。

金賞

がんばれ、しげちゃん

大堂津小学校　一年　落合　希光

「しげちゃん」というほんのえをみて、おんなのこがかわいかったので、よんでみようとおもいました。でもほんをよんでみると、しげちゃんは「しげる」という、おとこのこのようななまえのせいで、いやなめにあったり、いじめられるかふあんになったりしました。しげちゃんがかわいそうだとおもいました。

わたしは、しげちゃんに、二ついいたいことがあります。一つめは、「しげるというなまえはすてきです。わたしはしげちゃんとなかよくするからね。」といいたい

です。二つめは、「しげちゃんがいやなめにあったときは、わたしがしげちゃんをまもるからね。」といいたいです。

わたしは、このほんをよんで、じぶんのなまえは、あかちゃんのときに、おとうさんやおかあさんが、ねがいをこめてつけていることがわかりました。しげちゃんのなまえも、おかあさんのねがいがたくさんこめられています。しげちゃんに、なくなったおにいちゃんのぶんまで、がんばっていきていってほしいです。わたしも、おかあさんに、どうしてじぶんのなまえがのぞみなのかききました。すると、おかあさんは、「きぼうをもってひかりがかがやくようにいきてほしい。」といいました。わたしは、じぶんのなまえがだいすきです。

みんなのなまえも、おうちのひとがいっしょうけんめいかんがえてつけているとおもいます。じぶんのなまえをすきになってほしいです。

よんだほん「しげちゃん」

銀賞

がんばれ、マーくん

飫肥小学校　一年　山田　迪奈

「プッツン。ガラガラガラー。」

これは、わたしのがんばりパワーがきれたときのおとです。がんばりパワーがきれてないているときに、だいすきなおとうさんからこのほんをプレゼントしてもらいました。このほんは、マーくんが「もしも」のきんきゅうじたいをつぎつぎにおもいつくおはなしです。それを、マーくんのだいすきなおとうさんがおもしろく、かっこよくかいけつします。マーくんががんがえる「もしも」のきんきゅうじたいは、ほんとうのせかいではおこらないことばかりでとてもおもしろいです。

わたしは、すきなところが二つあります。一つめは、トンカチが千こふってくるところです。そのときおとうさんは、「あんがいあたらないもんさ」といって、りょうてをひろげてマーくんをまもっています。わたしは、「えー。それはむりでしょう。」といいながら、わらいすぎてたおれてしまいました。マーくんのおとうさんはいつもよいことをしていて、きっとかみさまからラッキーをプレゼントされたのだなあとおもいました。

二つめは、「マーくんがくじけそうなとき、おとうさんそばにいるよ。」といったところです。わたしのおとうさんもおなじことをいってくれます。おとうさんはとおくでしごとをしているので、あまりあえません。くう

こうでみおくりをするときに、「おうえんしているからがんばるんだよ。」といって、わたしのあたまをなでてくれます。かなしくてないてしまうけど、おとうさんがおうえんしてくれるので、パワーがたくさんたまります。

わたしが、もしマーくんとともだちになったら、おとうさんのすきなところだしあいっこゲームであそびたいです。きっと、どんどんでてきてずっとおわらないとおもいます。

「マーくん、おとうさんがおうえんしているからいっしょにがんばろうね。」

よんだほん「おとうさんはぜったいにしなない」

銅賞

「ざんねんないきものじてん」をよんだ

榎原小学校　一年　三浦　心実

わたしは、なつやすみに「ざんねんないきものじてん」をよみました。よみはじめたきっかけは、なつやすみにモンスターすいぞくかんにいって、もっといきものについてしりたいとおもったからです。

このほんをよんで、きになるせいぶつが二ひきいます。いっぴきめは、アオバトというとりです。このとりは、きのみやくさのたねとミネラルというえいようがひつようです。ミネラルをとるため、うみにいき、かいすいをのもうとしますがおぼれるそうです。このアオバトは、おぼれるかもしれないのに、がんばっていきようとする

ところが、すごいなあとおもいました。

にひきめは、ミーアキャットです。ミーアキャットはクロオウチュウにだまされるそうです。ミーアキャットは、クロオウチュウをなかまだとおもっていますが、クロオウチュウがミーアキャットのたべものをうばうため、わざとてきがきたとうそなきをし、よこどりすることがあります。ミーアキャットは、クロオウチュウをしんじているので、うそだとおもわず、にげてしまいます。クロオウチュウもミーアキャットもいっしょうけんめいいきているんだなとおもいました。

ほかにも、たくさんのせいぶつがいますがこのほんをとおして、しぜんのなかでざんねんないきかたをしていても、がんばっていきているせいぶつをたくさんしることができました。わたしのおうちにも、だんごむし、とかげなどたくさんすんでいます。このいきものについて、もっとしりたくなりました。

よんだほん「ざんねんないきもの事典」

【小学校二年生の部】

《講　評》

本を楽しみながら読み、自分の生活とむすびつけ、思いや考えをふかめることができています。読書をとおしてたくさんの気づきがあることにとても感心しました。これからも読書をとおしてたくさんの発見をしてください。

金賞

いつまでも家ぞくだよ

飫肥小学校　二年　坂元　伶名

わたしは、「やくそくだよ、ミュウ」を読んでなきそうになりました。犬のミュウとぼくは、いっしょに大きくなって、たのしくすごしていました。でも、ミュウはだんだん年をとって、もうすぐおわかれの日がくる。ミュウとぼくが、おわかれする日までいっしょにすごしたお話でした。

ミュウは、やさしくて、つよくて、たよりになるおねえちゃん。ぼくにとってミュウは、せかいにたった一人しかいない大切なおねえちゃんでした。わたしは、大切

なおねえちゃんがいなくなったら、つらいし、かなしいし、さびしくなってきます。でも、ミュウとぼくがえらいなあと思ったのは、おわかれの日がくるまで、いつもどおりに一日一日をせいいっぱいすごしたところです。

わたしの家にも、ラブという名前のヨークシャー・テリアの犬がいます。ラブは、わたしが生まれる前から家にいました。だから、わたしのおねえちゃんです。ラブは、わたしにとって大切な家ぞくです。ラブも、ミュウみたいに、おばあちゃん犬になってきました。だから、わたしもラブとせいいっぱいすごしたいです。

わたしは、この本を読んで自分のいのちやまわりの人のいのち、いのちがあるものを大切にしようと思いました。ミュウとぼくが、おわかれの日がくるまで、たのしくすごしたように、わたしもラブといっしょにすごせる時間を大切にしようと思います。今よりももっと、まい日をたのしくすごしたいです。

だいすきなラブちゃん。これからも、たくさんあそぼうね。いつまでも家ぞくだよ。

読んだ本「やくそくだよ、ミュウ」

銀賞

「けんかのきもち」を読んで

吾田小学校　二年　宮本　翔空

ぼくは、「けんかのきもち」という本を読みました。なぜ、この本をえらんだかというと、ぼくには弟がいて、いつもけんかばかりしています。本のだい名を見てぼくと同じと思ったからです。この本は、男の子の友だち二人がけんかをして、なかなおりするまでの気もちが書いてあります。

いちばん心にのこったのは、けんかをした友だちが「ごめんね」とあやまった時に、しゅじんこうがないていたところです。けんかにまけて、くやしくてずっとないていたけど、友だちの「ごめんね」のひとことで、くやしくて、むかついている気もちから友だちをゆるそうという気もちにかわりました。

ぼくも弟とけんかした時、しゅじんこうと同じ気もちになります。ぼくの弟は、二さい下なのに体が大きくて、しん長もぼくと同じくらいあります。だから、けんかをしても、かったりまけたりします。まけた時は、くやしくて、なみだが出ます。でも、

「ごめんね。」

と言われると

「いいよ。」

と言います。しゅじんこうの気もちとおなじだなあと思いました。

ぼくは、本を読んで、「ごめんなさい」は、だいじなことばだと思いました。ぼくは、けんかにまけた時、むかついてあやまらないけど、これからは、かってもまけても、「ごめんね」と言えるようになりたいです。

読んだ本「けんかのきもち」

銅　賞

「すうがくでせかいをみるの」を読んで

北郷小中学校　二年　甲田　優心

わたしがこの本を読もうと思ったきっかけは、おかあさんにすすめられたからです。おかあさんに、

「何をしている時が一ばんすき。」

と聞かれました。わたしは、

「そろばんをしている時がすき。」

とこたえました。この本は、みんなのすきなことが書いてありました。

この本に出てくるしゅ人こうの女の子は、算数がすきです。わたしと一しょでびっくりしました。読んでいく

としゅ人こうの算数がすきと、わたしの算数がすきは、少しちがっていました。このしゅ人こうは、絵をかく時でもたくさんの数字を書いていたり、こうえんにあそびに行った時でもいろいろな形を見つけることがたのしいと書いてありました。

わたしは、絵をかくじゅぎょうでは絵をかくし、こうえんでは形なんて見つけたことはありません。わたしの算数がすきは、けい算です。そろばんでパチパチと音をたててけい算をすることがたのしいです。もんだいがとけるとうれしいし、すっきりするからすきです。おねえちゃんもそろばんをしているから、わたしと同じ気もちなのかなと思って、

「おねえちゃん、何をしている時がすき。」

と、聞きました。すると、

「本を読んでいる時がすき。」

と、こたえました。わたしとちがうんだなと思いました。おにいちゃんに聞いてみると、

「体をうごかして、うんどうをしている時。」

と、こたえました。みんなすきなことがちがっていておどろきました。あと、きょうだいで、切ったくだものを分けるためにけい算したり、だがしやでけい算をしてかいものをする時がうきうきします。

みんな、すきなことがちがっていておもしろいと思いました。じ分のすきという気もちをたくさんはっけんして、しょうらいゆめにちかづけたらいいなと思いました。

読んだ本「すうがくでせかいをみるの」

入　選

「つくしとおねえちゃん」

桜ヶ丘小学校　二年　長友　翼

水たまりの絵が海に見えたので、海の本かなと思い、「つくしとおねえちゃん」を読みました。海の話ではなく、いじわるだけどやさしいおねえちゃんとつくしちゃんのお話です。

朝、学校に行くとちゅう、つくしがくつひもをむすぼうとくつに手をのばした時、ランドセルの中みが道ろにちらばってしまいました。いそいでいたから、ランドセルをしめられなかったのかな。中みが出てかわいそうだなと思いました。おねえちゃんは、もんくを言いながらもひろってくれたので、やさしいなと思いました。おばあちゃんに買ってもらったばかりの大切なけしごむが見つからなかったけど、おねえちゃんがいっしょにさがしてくれて、見つかりました。大切なけしごむがみつかってよかったと思いました。学校にちこくするといけないから、おねえちゃんがつくしちゃんがちこくをしないように、

「先にいっていいよ。」

と、言ってくれました。なぜなら、おねえちゃんは右足がふじゆうで、はやく歩くことができないからです。妹思いのやさしいおねえちゃんだなと思いました。つくしちゃんも校門前に立っている先生におねえちゃんがおくれるりゆうをつたえて、やさしいなと思いました。

いちばん心にのこったのは、たまにいじわるだけど、

もんくを言いながらもつくしちゃんのことをとても大切に思っているのがよかったです。ぼくにも弟がいて、けんかをすることが多いけど、なかよくあそんだりもします。弟がこまっていたら、ぼくもたすけてあげたいと思います。

読んだ本「つくしちゃんとおねえちゃん」

入選

「からすのパンやさん」を読んで

油津小学校　二年　竹内　彩愛

この本はおもしろいです。どうしてかというと、からすがパンやさんをしているからです。からすがどんなパンをやくのかな、と思って読みはじめました。

からすのパンやさんに赤ちゃんが四わも生まれました。オモチ、レモン、リンゴ、チョコとみんな食べものの名前でかわいいと思いました。

からすのおとうさんとおかあさんは、赤ちゃんが生まれたばかりだから、一生けんめいにパンをやいて、たいへんだなと思いました。パンをこがしてしっぱいしても、がんばっていてすごいです。子どもたちが大きくなって、

おとうさんとおかあさんのお手つだいをするようになって、よかったです。

からすの家ぞくみんなで作ったパンはおいしそうです。いろんな形のパンがあって、おもしろいです。わたしは、いちごパン、おそなえパン、うさぎパンが食べたいと思いました。

家ぞくできょう力してパンをたくさん作ったので、たくさんのからすがパンを買いに来てくれてよかったです。もうびんぼうではなくなるから、あん心です。

わたしのお母さんも、おしごとや家じ、わたしのおせわもがんばっています。だから、おかあさんのお手つだいをもっとしたいです。

読んだ本「からすのパンやさん」

【小学校三年生の部】

《講　評》

せん書の理由が明かくにしめしてあり、本の題名や登場人物等の言動から感じたり考えたことをわかりやすく表げんしていました。世界の動きや人間の心じょうにもふれられていました。

また、読書から学んだことを、今後に生かしていこうとする気持ちがよくつたわってきました。

金賞

ぼくが考えたしあわせ

飫肥小学校　三年　日髙　楓月

「しあわせ」という題名の本がぼくの家にはあります。この本は、ぼくは、赤ちゃんのころからあったので今までに何回もお母さんと一しょに読んでいました。みじかい本で、とても読みやすいです。どんなことが書いてあるかというと、「しあわせ」が何なのかを考えていく話です。どうして読書感そう文にこの本をえらんだかというとしあわせが何なのかを、一人で読んで考えてみようと思ったからです。

今、ロシアとウクライナがせんそうをしています。とてもいけないことだと思います。人間同しでころしあいをして、かなしい思いをしている人が世界にはたくさん

います。これは、しあわせではありません。でもぼくは、住む家もある、ごはんもおか子も食べられる、ねられる、べん強もできる、遊べる、友だちもいる、家ぞくもいる、だからしあわせです。でも、これは、ぼく一人がしあわせだなあと思っているだけです。ぼくは、みんなが平和な世界で元気にくらせることが、本当の「しあわせ」だと思いました。だから、早くせんそうをやめてほしいです。本のさいごのページに、「しあわせってなに　自しんをもつこと　自分を大切にすること　そして　自分と同じくらい　ほかの人も大切にできること」と書いてあります。ここを読んでぼく一人だけのしあわせだけじゃだめだと思いました。せんそうに力を使わないで、自分をまもることと同じように人をまもることに力を使ってほしいです。ぼくは、みんなを大切にしたいです。

読んだ本「しあわせ」

銀賞

きみは、どこからやってきたの？

東郷小中学校　三年　古澤　圭羅

ぼくは、「ひかる石のおはなし」という本を読みました。この本を読もうと思った理由は、おすすめに感動すると書いてあったからです。ぼくは、感動する本が大好きです。

この本の主人こうは、かえでくんという男の子です。そのかえでくんがきせきの石を拾ってから生活がかわっていくお話です。かえでくんは、お友だちからお母さんがしんだ事を言われてかなしくなって、しゃべれなくなっていたけど、石を拾ってしゃべるようになった所が心にのこりました。

しゃべられる様になる前は、暗くてお母さんがいなくてさびしそうでした。でも石のおかげで、お父さんといっぱいお話しするし、お友だちもたくさんできたからよかったと思うからです。この本を読んで、かえでくんみたいにぼくもお母さんに自分の名前の由来をきいてみました。まだひみつだそうです。

ぼくの名前は、どこからきたのかな？

お母さんが教えてくれる日が、くるのが楽しみです。

読んだ本「ひかる石のおはなし」

【小学校四年生の部】

《講　評》

本を読もうと思ったきっかけや理由が素直に表げんされていました。

次に、本を読んで心に残ったことを体験と照らし合わせて自分なりの感想が述べてあり感心しました。

最後に、本を読んで学んだことを、これからの自分の生活にどう生かすかまとめてありすばらしいと思いました。これからもたくさんの本と出会えるといいですね。

金賞

「先生、感想文、書けません！」を読んで

桜ヶ丘小学校　四年　丸太　大地

そうなんです。ぼくも、まさに同じ気持ちです。本のタイトルを見てすぐに手に取りました。だって、ぼくも本は大好きです。毎週土曜日に図書館に行くのが楽しみなくらいです。その時きょう味のあるものをとことん調べることが大好きなのです。だから、一日に何冊でも本を読みます。でも、その後に、感想文を書くことは、イヤなのです。

この本は、本が大好きだけど、感想文が書けない主人公のみずかが、友達のあかねと、本を作り、その本を読んで、感想文を書くというお話です。その本のあらすじ

は、あかねの弟のタクちゃんが、一人でお散歩に出かけて、いろいろと大変な出来事にまきこまれます。その都度、お姉ちゃんのあかねちゃんが、イヤな事でもがんばって弟を守るという内容です。

ぼくが一番心にのこった事は、友達のあかねが、神様にお願いしたい事をたくさん言ったあとに、主人公のみずかが、

「それはね『愛』って言うんだよ。」

と言った場面です。この言葉は、ぼくの心にグッときました。きっとぼくの心に、「愛はすてきだなあ」と伝えてくれたのだと思います。

それにくわえて、主人公のみずかが、自分達で本を作ろう！という発想力と、それを実行できる行動力も、とてもすごいと思いました。

ぼくは、自信を持って行動する事が、なかなかできません。どちらかというと苦手です。だから、こんなみずかが、とてもすごいと思います。ぼくは、みずかを見習って、何でも自信を持って行動が出来るようになりたいです。この本は、ぼくが、四年生の間にこく服しないといけない事がのっている、ぼくのための指示書の様な物だと思いました。

ぼくが、この本を読んで変わった事は、出来そうになるきっかけがあれば、何でも出来るようになって、成長する事ができると知った事です。

だから、いろいろな事にチャレンジする事は大切だと思いました。これからも、ぼくは、たくさんの事にチャ

レンジしていきます。

まずは、もっと、たくさんの本と出会いたいです。

読んだ本「先生、感想文、書けません！」

銀　賞

「みんなのためいき図鑑」を読んで

北郷小中学校　四年　甲田　迅

「はあ。」

みんなは、ため息をついたことがありますか。

ぼくは宿題をするときにやる気がなくてため息をついたことがあります。かたが落ちて暗いイメージのため息が出ます。この本のみんなのため息はどんなため息なのか知りたくて読むことにしました。

ため息図かんを作ることになった四年生の主人公のグループは、もめてばかりでした。みんなの意見が、まとまらなくて大変そうでした。ほけん室登校の女の子が

かいた、ためいき小ぞうが目の前にあらわれます。そのためいき小ぞうからため息の世界につれて行ってもらってみんなのため息を聞きました。もし、ぼくの前にためいき小ぞうがあらわれたら、たんにんの先生のためいき小ぞうを見てみたいなぁと思いました。なぜなら、いつもギャグばかり言っておもしろい人でもため息をつくのかなぁと思ったからです。ためいき小ぞうの世界から出てきた主人公は、グループのメンバーの一人一人の立場になって考えていました。

最後にため息図かんが完成していてすごいと思いました。主人公の思いやりがあったから、まとめることが出きたのだと思います。みんな、知らずにため息をついています。ため息をつくと、幸せがにげると言う人でもため息をつきます。お父さんが仕事で、うまくいかなくてため息が出るときは悲しい気持ちになって、青色のため息が出るのかなぁと思いました。お母さんは、おいしいものを食べた時うれしそうだからピンク色のため息が出るのかなぁと思いました。

この本を読む前は、ため息に種類があるなんて知りませんでした。暗いイメージだったため息という言葉が、明るく楽しいイメージに変わりました。ため息をつくことで、体をリラックスさせることが出きるそうです。なので、うれしい時やびっくりした時、すっきりした時にでもみんなため息をついて、コロナなんてふき飛ばしてほしいです

読んだ本「みんなのためいき図鑑」

銅　賞

行動した者勝ち

飫肥小学校　四年　山田　珠緒里

ワクワクドキドキ。これから先生が「魔女の子どもたち」という本を読んでくださいます。題名を聞いたしゅん間、私は頭から湯気が出るかもしれないと思うほどこうふんしました。なぜなら、私は本の中でも魔女の本が大好きだからです。「魔女の子どもはこわいかな、やさしいかな」と、とても気になりました。

私は、この本の中で好きな場面が二つあります。

一つ目は、魔女姉さんが公園の大きな木をお城に変えたことです。私は、真っ白でキラキラしたお城をそうぞうしました。もし、魔女姉さんがここにあらわれたら、まほうを教えてもらって私の家を空とぶお城にしたいです。そうすれば、東京にいるお父さんも一緒に住みながら仕事に行けるし、私も今の学校に通えます。もしもそれが本当に叶ったらと考えると、とってもワクワクした気分になります。

二つ目は、魔女姉さんと魔女兄さんが、公園にいる人達にでたらめにまほうをかけた時のチビ魔女ちゃんの行動です。おばさんがおひめ様になったり、女の子がカエルになったり、カエルが王子様になったりして、どれが何だか分からなくなるくらい大パニックになりました。それを見たチビ魔女ちゃんが笑って笑ってズボンがビリッとやぶけました。それを先生がお読みになったしゅん間、ポップコーンがはじけたようにクラス全員が笑

いました。私も大笑いしました。でも、この後すぐにチビ魔女ちゃんがやさしい行動に出ます。一つしか使えないまほうを、まほうにかかった人達を元にもどすために使ったのです。私が予想していた通りのやさしいチビ魔女ちゃんでほっとしました。

私はこの本に出てきたチビ魔女ちゃんのことが、大好きになりました。なぜなら、笑い過ぎてズボンがやぶけてしまうかわいい所もあり、助けると決めたら全力で行動する勇かんな所もあり、み力いっぱいの女の子だと思うからです。私もチビ魔女ちゃんのように、今の自分にできる一番良い方法を選び、行動に移せる人になりたいです。

読んだ本「魔女の子どもたち」

入　選

「関ケ原の合戦」を読んで

吾田小学校　四年　加藤　公輝

ぼくは、歴史が好きで、図書館に行くと、よく歴史の本をかります。そしてまた、何をかりようかなやんでいた所、「関ケ原の合戦」という本を見つけて、少しは知っていたけど、くわしく知りたいと思ってかりました。

関ケ原の合戦は、いろいろな武将たちが西軍、東軍に分かれて戦っていて、西軍の方が圧倒的に有利だったのに、大谷吉継が自刃して東軍が勝利したのがびっくりしました。

家康が、いろいろな事をして、関ケ原の合戦に勝利し、天下を手に入れたのはすごいと思いました。

そして、鳥居元忠は、家康の天下統一のために討ち死にすると言っていて、家康の事を信頼しているんだと思って、感動しました。

石田三成も、最後まで体を大事にしていて、感動しました。

「関ケ原の合戦」を読んで、関ケ原の合戦がどのような戦いだったのかがくわしく分かりました。

昔戦っていた人も、人のために何かをしてあげたり、自分の考えたことを最後まで続けたりするなど、とてもいい心の持ち主という事が分かって、ぼくもこのようになりたいと思いました。

読んだ本「関ケ原の合戦」

【小学校五年生の部】

《講　評》

単に、「すごいな」、「すばらしい」といった表面的な表現ではなく、共感した登場人物の生き方や考え方を実生活の具体的な場面に照らし合わせて生かそうという気持ちが上手に表現されています。

読書を通していろいろなものの見方・考え方にふれ、心を豊かにしていってほしいと思います。

金賞

「捨てないパン屋の挑戦　しあわせのレシピ」を読んで

北郷小中学校　五年　甲田　星南

今、新聞やテレビでＳＤＧｓという言葉を毎日のように目にします。この本を読むきっかけになったのは、本の帯でした。その帯には、「食品ロスについて考える」と書いてありました。どのような食品ロスの方法があるのか知りたくなり、読んでみる事にしました。実さいにあったパン屋の話で、パンぎらいの主人公の田村さんが実家のパン屋をつぐ事になり、自分の理想とするパン屋を開いたという話です。

パン工房を飛び出して、モンゴルに旅に出た時に、食べる事とは大切な命をいただいているということを学んでいました。羊ややぎの命をいただく時に何一つ無だにしないという所に心をうたれました。わたしたちの生活かん境は、買い物に行くとすぐに食材が手に入り、いつでもどこでもすぐに食べれます。かん単です。それがあたりまえすぎて感しゃの気持ちがなくなり、残ぱんを出しているのだと思います。必要以上に買わないという事と必要以上に作らない事を心がけ、はいきゼロを目指していかないといけないと思いました。いただいた命に感しゃして食べないといけない事に強く共感しました。

フランスでは二度もしゅ業して学んでいました。フランスは、主食がパンなので数種類のパンを大量に作ります。でも、すてる事はありません。夜から朝、昼、夜と何十種類ものパンを作ってはん売し、売れ残っては、はいき。という働き方だった田村さんは、目からうろこだったと思います。そこで、百年以上続くパンを残すフランスで学んだ結果、フランス式のまきがまを取り入れ、シンプルなパンを数種類のみ焼く事にしました。わたしは、田村さんのあきらめない心に感動しました。これだとひらめいた時、とてもうれしかっただろうなと思いました。

何度も何度もちょう戦し続け、これから先百年続くパン屋を目指してがんばる田村さんに、元気をもらいました。いつか、田村さんのパンを食べてみたいなと思いました。はいきロスは、みんなで取り組んでいかなければ

ならない問題です。食材の一つ一つも大事な命なので、感しゃの気持ちは、わすれてはいけないと思います。なので、みんなで目指してしあわせなかん境づくりが出来るといいなと思います。

読んだ本「捨てないパン屋の挑戦　しあわせのレシピ」

銀　賞

「子どものためのルールブック」を読んで

鵜戸小中学校　五年　髙野　陽太郎

そんなつもりじゃなくても態度がよくないと言われる時があります。ぼくは自分の態度を改善して、みんなと気持ちよく過ごしていきたいと思っていました。そんなときに「あたりまえだけど　とても大切なこと　子どものためのルールブック」というロン・クラークさんの書いた本に出会いました。この本には、ぼくがいままで注意されてきたことが書いてありました。ぼくは、注意されている時なぜ注意されてしまうのかを考えています。自分の納とくしない時は言葉づかいがよくなくなります。この本は、そんなことを解決してくれることがた

くさん書かれています。ぼくは、この本を書いたロン・クラークさんは、まるでぼくを知っているかのように感じました。それほどぼくにぴったりの本でした。

ルール四十八の、いつも正直でいようがとくに心に残りました。以前ぼくは宿題を終わらせていないのにもかかわらず、お母さんに、

「終わった。」

と言ってしまったことがありました。すぐにお母さんはうそに気づいてぼくを、注意しました。ぼくはその時、「うそは明かされるんだな」と、思いました。このルールブックにもうそを付いて、そのうそが明るみになった二人の女の子のことが書いてありました。しかしその子たちはうそが明るみになった後に教師から言われてうそになったことをみとめました。どんな事情があろうと、たとえわるいことをしたときでもいつも正直でいようとおもいます。

また、ルール十五、宿題は必ず提出する、も心に残りました。今まで宿題がめんどくさくて、いやだなあと思っていました。しかし本には宿題をかならず提出するのは、期限どおりに課題をこなすことを学ぶためだと書いてありました。宿題がいやで後まわしにするのは未来の自分にとってもためにならないことがわかりました。これから宿題がいやだなと思った時は未来の自分のためにがんばりたいです。

ルール四十六、したいことがあるならやってみよう。というルールはこれからずっと大切にしていきた

いです。本には「後悔のない生き方をしよう。精いっぱい生き、何ものにも負けずに夢の実現をめざそう」と書いてありました。ぼくのお父さんは、ルール四十六ができていて、毎日楽しくすごしています。ぼくもお父さんのようになりたいです。そのために夢をあきらめないように、ルールを守って生活していきます。

読んだ本「あたりまえだけど、とても大切なこと　子どものためのルールブック」

銅　賞

出会いで広がる世界

桜ヶ丘小学校　五年　丸田　彩葉

やっぱり、多様な価値観を大切にしていきたい。私はそう思う。

この物語は、成績優秀でムダなことや言葉で説明できないことが嫌いな、小学六年生の理一郎が主人公である。そんな理一郎が、考え方や環境が全く違う海空良と大智と関わっていく話だ。海空良は、大智の兄である夏紀にお菓子作りを習っており、理一郎がムダだと思って興味を持たないようなこともするような性格である。そして理一郎と同じ学校に通っている。大智は、夏紀の次に来た養子で、家族と血はつながっていない。三・四年生の

頃、理一郎と同じクラスで、その後転校したが、ぼんやりしているし、少し自由すぎて転校先の学校にはあまり行っていないようだ。

私は、主人公の理一郎が自分と全く違う価値観を持つ二人に対して拒絶するのではなく受け入れていったことが素晴らしいと思った。自分と考え方や物事の見方などが違うからといって簡単に拒絶してしまうと、相手が傷つくかも知れないし、得られた様々な視点や利益も手放してしまうからだ。私の母も、「転んでもただでは起きない」という言葉のように、どんな状況でも自分の利益になるような行動をとろうとしたり、前向きな考え方ができるように気を付けたりしているそうだ。違う意見の人に会ったときも、新しい視点に気付けるから話をよく聞いてみるよう私にもすすめてくれた。確かに、サプライズをするとき、自分だけでは思いつけないアイデアを友達からもらって、素敵なプレゼントを用意できたことがある。これからも、この夏の出会いで成長した理一郎のように、私も他者とのふれあいを通して世界を広げていきたい。

読んだ本「空と大地に出会う夏」

入　選

大切な命

榎原小学校　五年　河野　華菜

友森玲子さんという一人の女の人がいました。小さなころから動物が大好きだったそうです。そんな友森さんは、家でペットをかえなかったことから、小学校のし育員をしたりペットサロンで働いたりしました。じゅう医さんになりたくてちょうせんしたけどできなくて、ほごする仕事についたそうです。

保ごセンターでは、かうことができなくなった動物や保ごされた動物が殺処分されることもあるそうです。私は、そんなことがあることを知らなくて、さみしい気持ちになりました。処分機に入れられて、炭酸ガスを注入されてそのまま処分されます。二〇一〇年には二千百十一頭も処分されたそうです。

「殺さないでほしい。」

と言う人もいるけど、保ごひもたくさんかかるため処分しなければならないそうです。ひろわれた命やたん生した命が、かえなくなったという理由で処分されていることを知り、自分たちができることを一人一人が考えてほしいと思いました。

私は、七年前に、山道で一匹の犬をひろい今も育てています。一匹だけだったからかうことができたけど、また捨てられていたら、もうかうことはできません。玲子さんは、たくさんの動物を保ごしていて、すごいと思い

ます。関東地しんの時にも、くじゃくやニワトリ、牛などたくさんの命をすくったそうです。

友森さんは、小さな命と出会ったり、わかれたりをくり返しながら、動物と向き合っていてすごいと思います。

私の家にも犬、ねこ、牛がいます。命を大切にして、動物と向き合っていきたいです。これから、私たちにできることを考えて生活していきます。友森さんが自分の体験を通して、命を大切さを伝えているので、みんなにも読んでほしいです。

読んだ本「１００グラムのいのち」

入　選

「シートン」を読んで

南郷小学校　五年　岩切　姫花

私は、「シートン」という本を選びました。なぜこの本を選んだのかというと、迫力ある動物たちが表紙にえがかれていて、とても興味がわいたからです。

この本の主人公シートンは、博物学者です。また、作家であり画家でもあります。シートンは子供のころから動物が好きで、大人になると、動物を守る動物保護区を造ったり、本を書いて動物のすばらしさを伝えたりする活動を始めました。

シートンは、絵がとても上手でした。その絵は、見た物の目をいっしゅんで釘付けにし、だれもが「すばらし

い」と自然に声をもらしてしまうようなものでした。

このことから、シートンの父は、シートンに画家になるようにすすめます。しかし、シートンは、画家よりも博物学者になりたいと思っていました。それで、自分の自由に使える時間は、好きな博物学者として使いたいと決意しました。それから努力を積み重ねて、画家と夢である博物学者になるために、一生けん命努力しました。

そんなシートンですが、時には農場を経営する兄のもとに行くこともありました。なぜならば、農場に行くことで、多くの動物たちとふれ合うことができたからです。

ある時、シートンは農場の近くで、お鹿に出会います。シートンは、美しくりんとしたお鹿の姿を見て、もっとお鹿のことを知りたいと思いました。それで、お鹿を狩って調べようとします。初めはうまくいきませんでしたが、友人からの助言もあり、見事にお鹿を狩ることに成功します。当初は、狩りが成功したことをとても喜んでいたシートンでしたが、時間がたつにつれて、あの美しくりんとしたお鹿を死体に変えてしまったことに、大きな後かいを覚えます。

それから、シートンの考え方は、大きく変わりました。シートンは、このできごとから、自然のすばらしさ、命の大切さを学んだのだと思います。彼は、後にこう言っています。「ぼくは、みんなに自然の大切さを知ってもらいたい。自然を愛する仲間を、増やしたい。」 私は、この言葉に共感しました。彼が経験を通して、本当の意味で動物を好きになり、動物を愛する心が芽生えたのだ

なと思いました。

私は、今回のこの本との出会いで、シートンのようになりたいという気持ちが生まれました。夢が獣医師なので、シートンのように動物や自然を大切にする気持ちを忘れずに、夢の実現に努めたいと思います。また、シートンの言動から、動物も、私達人間と同じく生命をもっており、大切に扱うべきものだということを学びました。

このことから、みなさんにも、ぜひこの本を読んでもらいたいと思います。

読んだ本「シートン」

【小学校六年生の部】

《講　評》

特に感動した部分にしょう点を当て、今までの自分をふり返り、改めようとする前向きな姿勢が素晴らしいと思いました。その本との出会いで、自分の考えやこれからの生き方に変化が出てきたことが、ていねいに表現されていました。

金賞

すぐにあきらめてしまう自分にさよならを

桜ヶ丘小学校　六年　小杉　柚月

私は、「青いスタートライン」という本を読みました。題名からなんだか不思議な印象を受けたので、この本を選びました。

この本は、颯太という五年生の少年が、佐渡で行われる「オープンウォータースイミング」という大会に出場するという場面から始まります。この大会に出るために、颯太は遠く離れたおばあちゃんのいる佐渡に一ヶ月間も行くことになります。そして、夏生コーチに海での泳ぎ方やいろいろなことを教わり、ついに当日を迎えます。

緊張と不安でいっぱいだった颯太。実は、それまで二十五メートルしか泳げなかったのです。だから、あきらめかけていました。足に力が入らずへとへとになりました。それなのに、おばあちゃんやコーチの応援のおかげで、なんと一キロを泳ぎきることができました。

私は、この本を読んで、颯太はたとえへとへとになっても、足に力が入らなくても、足がつっておぼれそうになったとしても、決してリタイアをせず、とてもすごいなと思いました。颯太は最下位だったけれど、全然はずかしがらずに、むしろ達成感があって、とてもうれしかっただろうと思います。颯太はとても勇かんだなと思いました。

「あきらめずにやってよかったね。おめでとう。」

と、言葉をかけてあげたいです。一キロを泳ぎきった颯太がライフガードの人たちのアーチをくぐるという場面が、とても心に残りました。感動しました。この本は、颯太が感じた苦しさとうれしさの両方の気持ちが伝わってきて、とても胸に響く話だなと思いました。

こんな勇かんな颯太と私を比較すると、足りないところばかりです。私は民謡をずっと習っているのですが、始めたころのように本番でうまく歌えなくなり、大会でも入賞できることが少なくなりました。それなのに、もっと練習するというやる気もなく、あきらめかけていました。だけど、颯太は私と違って、たとえあきらめかけても、今のことだけではなく後のことを考えて行動しています。ポジティブな思考ができる颯太には、尊敬しか

ありません。だから私も颯太のように、後のことを考えて、あきらめずがんばってやっていきたいです。私がもしこの本に出会っていなかったら、「どうせ私は…」といつまでもあきらめ続けていたと思います。もっともっとポジティブな考え方ができるように、がんばる前からあきらめる自分とはさよならしたいです。この本に出会えてよかったです。

読んだ本「青いスタートライン」

銀賞

夢に向かって

南郷小学校　六年　土屋　瑛音

みなさんにとっての「夢」とは何ですか。ぼくの将来の夢は、人の役に立つ仕事につくことです。でも、人の役に立つ仕事とは何かまだ分かりません。

この本を選んだのは、自分の夢を叶え、人のためにどうしたらよいかを常に考え、けん命に活動を続けている作者に、今のぼくが影響を受けたからです。

プラネタリウムの職員だった作者は、どんな環境の人達にも星や宇宙のことを知ってもらえないか考えます。例えば、元気な人は会場に足を運んで見ることができますが、病気でねたきりの人は行くことができません。だ

から、出張プラネタリウム事業を起こします。せまい病室で何の模様もない天井をながめていた人達が、この事業で天井に映し出された星や宇宙のことを見て、勇気づけられます。夜がくるのがこわくて不安だった人が目にしたしゅん間、今まで見たこともなかった笑顔を見せたり、手術を目の前にした人に元気を与えたりします。「どんな形であれ、だれかの力になることをしたい」と強く感じました。

この本を読んで思い出したことがありました。ぼくは周囲からたくさん親切にしてもらっていることです。その一つに、運動場で転んでケガをした時、友達が保健室まで連れて行ってくれたことがありました。その友達はぼくのうでを必死で支えながら、

「だいじょうぶ。困ったらいつでも言って。」

と言い、痛かった足のことを忘れるぐらい心が温まりました。それがきっかけで、ぼくも困っている人を見かけたらすぐにかけ寄って声をかけるようになりました。

たくさんの親切に恩返しができるように、この本の作者のように自分の仕事を「天職」だと言えるような仕事を見つけていけるようにしたいです。そして、夢に向かって一日一日を大切にしていきたいです。

読んだ本「星空を届けたい　出張プラネタリウムはじめました！」

銅賞

「カラフル」を読んで

鵜戸小中学校　六年　中原　咲和

「抽選に当たりました！」の言葉から物語が進んでいき、わくわくした気持ちで読みはじめました。しかし、自殺というとても重たい話でした。自殺した人間が、抽選に当たったら下界でホームステイをし、もう一度人生をやりなおせることを、「当たり」といいます。とつ然の事にも、小林真は落ちついていたけど、わたしだったら「どうしよう」「不安だな」とずっとなっていたと思うのですごいな、と思いました。

下界で真がすごしている様子を見て、世の中にはいろんな人がいるんだなということを改めて知りました。と中で二万八千円のスニーカーがぬすまれましたが、そのスニーカーがその後どうなったのかが気になります。

真は「自殺」をしてしまったけど「早すぎた」と考えていた所から、もう少し、考えていれば「自殺」をやめられたかもしれません。そして、家族や友人と楽しくすごせたのではないか、と考えました。わたしは環境にめぐまれているので「自殺」を考える位の不安やなやみをかかえたことがありません。それが幸せなことだと改めて実感しました。しかし、もし「自殺」を考える位の不安やなやみをかかえてしまったら周りの人に助けを求め、話し合い、「自殺」なんてせずに、解決します。自分の周りの大切な人が「自殺」してしまったら、とても悲しいです。わたしが「自殺」をしても周りの大切な人

は同じ位悲しいと思います。なので「自殺」は絶対にしません。天使のプラプラは出てきましたが、神様は出てきていません。わたしは「カラフル」の神様はどんな方か気になります。「カラフル」の神様もきっと「自殺」はだめだ、と思っていると思います。

真が「自殺」してしまった原因は、友人関係、勉強、家庭環境などいろいろあると思います。とてもつらかったと思うし、悲しかったと思います。しかし、それでも神様は「自殺」してほしくなかったと思います。真がなやみ、不安をなくすために何か行動してほしい、と考えてしまいます。真に対して、わたしなら、「もっと周りの人をたよって話そう。」と声をかけたと思います。なやみや不安をかかえたら「もうだめだ」と「自殺」するのではなく、勇気を出して、何か少しでも行動することが大切です。

この本からは「生きることの大切さ」を学んだと思います。不安やなやみをかかえたら、「自殺」を考える位つらかったら、周りの人をたよれる様、そして、周りの大切な人達にも、たよってもらえる様、がんばります。

読んだ本「カラフル」

入　選

ぼくの目標

吾田東小学校　六年　後藤　大智

「夏の猫って、どういう猫なんだろう。」

ぼくは、「夏の猫」がどんな猫なのかとても気になったので、この本を読んでみることにしました。

この本の主な登場人物は、海と、海のいとこの舟、そして、海の母の妹のなっちゃんの三人です。この三人が、祖父母の家がある瀬戸内海に面した町で、夏休みに一緒にすごす話です。

海の祖父母の家の裏山の防空壕には、「ナツネコ」という灰色の猫が住み着いています。三人がこの場所でいろいろな体験をする中で、この「ナツネコ」が姿を現します。ぼくがこの本で一番心に残ったところは、なっちゃんが昔、大切にしていたスケッチブックを、夏と舟の二人で防空壕まで探しに行き、無事にスケッチブックをなっちゃんの手元に返したときになっちゃんが言った、

「才能があるかないかなんて関係ない。他人の目を気にせず、絵が好きなら描けばいい。そんな当たり前のことがやっと分かった。」

という言葉です。なっちゃんのこの言葉を聞いた海は、ケガをして辞めていた「サッカーが好きだ」ということを思い出し、サッカーを続ける決心をします。

ぼくは、四才から水泳を習っています。毎日、何時間でもプールにいたいくらい、泳ぐことが大好きです。でも、最近、家の都合で一ヶ月大好きな水泳を休まなくて

はいけませんでした。しばらくして、水泳を再開できると決まった時に、ぼくは、もう泳げなくなっているんじゃないかと、急に不安になりました。実際に泳いでみると、不安は的中し、思うように体が動かず、タイムも落ちていました。体力も落ちていたので、練習自体もかなりきつく、泳ぐことがきらいになりそうでした。そんな時、友達から、

「練習を続けたら、タイムはきっと縮まるよ。一緒にがんばろう。」

と声をかけてもらいました。その言葉でぼくはがんばろうと思い、大好きな水泳を今でも続けています。

この本を読んで、ぼくは、自分の好きだと思うことは、才能や人にどう思われるかを気にせず、一生懸命にやってみることが大切ではないかと思いました。だから、ぼくは、自分がどんな状況でも、その「好き」という気持ちを忘れないようにしたいです。そして、もし落ちこんでいる友達がいたら、ぼくがそうしてもらったように、友達に気づかいができる人になりたいと思いました。

この本を読んで、ぼくには一つの目標ができました。それは、水泳のタイムを少しでも縮めることです。水泳を再開してからがんばって練習をしていますが、タイムが伸びずに悔しい思いをしています。でも、努力は裏切らずに、いつかはタイムが縮まると信じて、あきらめずに練習をがんばります。

読んだ本「夏の猫」

入　選

「アンネ・フランク」を読んで

飫肥小学校　六年　川添　佑珠

アンネ・フランクという名前の少女は、ユダヤ人であることから差別を受け、わずか十五才で命を落としました。

わたしは「アンネ・フランク」を読んだ時、とてもおどろき、その次に腹が立ってきました。なぜならユダヤ人は何も悪い事をしていないのにもかかわらず、人々に差別をされ数えきれない程たくさんの人が殺されたからです。その中には大人になる事すらできなかった人もたくさんいました。わたしはこの事を知って、差別とはどれほど残こくなものなのかを改めて感じました。

そして、こんなにも悲しい出来事があったのに、まだ世界中で差別が起こっていることがとても残念でした。わたしは差別はもうとっくに終わったものだと思っていましたが、ニュースで度々流れる、日本人が障害者に向かって暴言をはいたというようなものを見て、身近な場所でも差別が起きている事を知りました。すり傷や切り傷は時間が経てば治ります。しかし、心の傷は一生治りません。そして、差別によってできた心の傷が原因で命を落としてしまう人が今でも世界中にいるのです。わたしはどんな人にも平等に接して、この世界から差別を無くしたいです。しかし差別を無くすことはそう簡単にはできません。それでも、わたし達一人ひとりが少しず

つ変わっていけば、いつか差別が無くなる日は来ると思います。もう二度とあのような悲劇を起こさないためにも、わたし達一人ひとりが自分を変える努力をする事が大切だと思います。

読んだ本「アンネ・フランク」

【中学校の部】

金賞

一人前になること

吾田中学校　三年　戎浦　真理花

今年四月の民法改正により、成年年齢が十八歳に引き下げられ、保護者の同意を得なくても、自分の意思で様々な契約が十八歳でできるようになりました。先日、誕生日を迎えた兄は、まさにその十八歳。姉が成人した時とは雰囲気は違いますが、私も三年後には成人になります。大人への階段を少しずつ登り始め、嬉しいような不安な気持ちです。考え方や態度が成熟した思慮分別がある「大人」になれるでしょうか。十五才を目前にした今の私には、まだその自信がありません。

今の私の仕事は学校に行くこと。そして、勉強をして知らないことをたくさん学ぶことです。学校は私にとって生活の一部であり、居場所でもあります。人見知りな私ですが、中学校では、先輩・後輩の関係も知ることができ、幅広く人と知り合うことができました。学校は、友達と話をしたり、部活をしたり、私にとってすごく楽しい場所です。しかし、この本を読んで、みんなが私のような考えで学校に通っているわけではないのだと考えさせられました。

横浜郊外に住む中学三年生の内気で人とのつきあいが上手くない主人公、川島大介は学校に行かなくなって半年が経ちました。登校していた半年前に仲の良い同級

生と話していた遠くへの旅を実現すべく、ヒッチハイクをしながら屋久島にある縄文杉を目指して、ある日一人で冒険という家出をします。「何で学校に行かなきゃいけないんだ。明るくて、素直で、賢くて……。そんな子だけが、いい子なのか。」と心の叫びを抱えている大介。学校にも家にも居場所のない大介にとって、大人は苦手で、大人は矛盾で自分勝手だと思っていましたが、このヒッチハイクで出会った人との出会いと支えによって大きく変化・成長するのです。道中、大介が出会う人々はそれぞれ個性的ですが、みんな人間的な温かみがありました。屋久島で出会った女性に大介はこう言われます。

「人間は一人前にならなきゃいけないのよ。どんな方法であれ、一人前になる努力をしなくちゃならないの。」

「一人前」とはどういうことなのか。

大人になったら誰でも自然に一人前になれるものだと思っていました。でも、そうではないのです。「一人前というのは、自分の顔と心を持っていて、自分の頭で考えたことを自分の言葉で表現できるようになることだ。でも、まずはありのままの自分を好きになることだ。」とその女性は言います。私は、よく母に反抗的な態度をとってしまいます。「外でそんな態度をとっていたら周りの友達は大変よ、気をつけなさい。」と言われます。わかっていても、なかなかこの性格を直すことができず、自分の性格を好きになれないでいました。でも、この女性の言葉を聞いて、私は私なりに自分を好きになっていいんだと思えました。私の好きな金子みすゞさんの詩

「わたしと小鳥とすずと」の中に「みんなちがってみんないい」という節があります。人には個性があるから素敵なんだ、たくさんの人、たくさんの個性が集まっているからこそ世界は成り立っているんだと改めて感じました。自分を好きになり、ありのままの姿、何もごまかしていない自分を大切にしようと思いました。そのためには、ありのままの自分を認め、ありのままの自分を認めてくれる存在が必要です。そのためには、周りの人との信頼が大切であり、相談できる友達、家族、環境などが欠かせません。私にはたくさんの友達がいます。時にはケンカし、時には笑いあえる存在です。そしていつも支えて、見守ってくれている家族は、私にとって一番の心のオアシスです。そんな友達や家族を大切に過ごしたいと思います。

大介も私と同じ十五才。最初は、学校に行っていない大介を不思議に思ったけど、一人で旅に出る大介の勇気と、旅を通して変わっていく大介をすごいと思いました。旅をしながら大介は、だんだん大人の印象や親に対する感情が変わっていきました。学校では学びきれない人間関係や学校の大切さを旅を通じて学び、家に戻りました。大介にとって学校は息苦しい空間だったのに、旅から帰って、自分で学校に居場所を作り、ありのままの姿で過ごせるようになりました。旅という名の学校で多くのことを学んだ結果だと思います。

十五才という年では、やっぱり、まだまだ一人前にはなれませんが、大人になるための道をしっかり固めなが

ら過ごしていきたいと思います。しかし、自分で対応できることばかりではないと思うので、迷ったときは大介のように強い意志を持ち、前に進んでいこうと思います。もし、大きな壁にぶち当たったら、ありのままの自分を認め、自分を信じて一歩一歩、一人前になる努力をしていきたいと思います。

読んだ本「十五才」

銀　賞

全ての事に感謝して

飫肥中学校　二年　瀬戸山　璃音

「文豪中学生日記」私はこの作品と出会い、考え方や物事への向き合い方が変わった。この本との出会いは、図書館だった。文章を書いたり、読書をする事が好きな私は、この本の題名に興味を持った。自分と同世代の子は、どんな日記を書くのか気になったからだ。興味本位で借りた本だが、この本との出会いが私の全てを変えることとなる。

この本の主人公、西城春希は、文章を書く事が好きな中学二年生である。新しい年の始まり、一年間続けられる何かを考えたときに日記が思い浮かぶ。紀貫之のよう

に性別を変えて「僕」として書き始めた。そんなある日、イチゴッコというサイトに出会う。十五歳の中学生が詩を投稿し、順位をつけられるサイトだ。春希は、興味を持ち自作の詩を投稿した。すると三カ月連続で一位を獲ったのだ。このとき私は思った。春希はきっと、天にも昇る気持ちだっただろうと。なぜなら私も似たような経験をしたことがあるからだ。小学生のとき、絵画ポスターなどで何度も賞を獲り、エイサーというダンスでは、たくさんの場所に行き、舞台に立って大活躍していた。周りからは注目を浴び、毎日のように褒められ、絶好調の日々を送っていた。今思い返せば、小学生時代のあのキラキラ輝いていた時期は、私の人生において、最大の山場だったのではないだろうか。まさに、詩の投稿サイトで三カ月連続で一位を獲った春希と同じ状況だったのだ。だが私がそれ以上に春希に共感し、初めにも書いたように、私の全てを変えた場面はここから始まる。春希は、四カ月連続の一位入賞を狙って五月の詩を書いた。テーマは「幸せ」。クラブ顧問の先生と行ったお店で食べた、フルーツパラダイスの味が忘れられず、その幸せを詩にした。春希自身は、大勢の人と自分の感じた幸せを分かち合いたいだけだった。しかし、それは春希を絶望に追い遣った。ある日投稿された、春希の幸せを批判する一つのコメント。これを始めとし、人々が次々と詩を批判するコメントを投稿し、サイト上で嵐が巻き起こった。春希の存在自体を否定するコメントも増えた。春希は誰しもを疑ってしまい、どうしようもない孤独感に

陥り、部屋に引きこもるようになる。私は、この春希に共感したのだ。

あれは、中学一年生の夏の終わりのことだった。体調をくずし、宮崎の病院に入院することになった。四カ月という、長期に亘る病院生活だった。退院してからも何度か体調を崩した。周りの友達と同じように生活できない苦しみや、何をするにも抱いてしまう孤独感から、私も春希のように、部屋にこもる毎日を送っていた。全てが無意味に感じられる。自分は一人ぼっちなんだ、と思ってしまう春希の気持ちが、とてもよく分かった。「この先、どう生きていこう」と、思い悩む日々。そこから私や春希のことを救ってくれたのは、ある人の一言だった。

春希は、作家の助手をするためにギリシャに来ていた。作家の名は沙羅。春希の話に耳を傾け、熱心になって聞いてくれた。春希は心を開いて、サイバーいじめに遭った事を話す。すると沙羅さんは、

「今のその経験は、とっても貴重な財産になるよ。」

と言ったのだ。春希は耳を、私は目を疑った。そして、そうなのか、と驚いた。止まることなく、進む毎日。明日が来ることを恐れていた私に、沙羅さんの一言は大きな希望を与えてくれたのだ。それはきっと、春希も同じだったと思う。私や春希にとって、この一言は生きる道を正しくしてくれた大切な言葉なのである。

この本を読み終えて、私はとても前向きになることができた。今のこの辛くて苦しい時期や経験が、将来どこ

かで役立つ財産へと変わる。だったら、たくさんの経験を重ねて、大きな財産にしてやろう、そう思えるようになったのだ。毎日部屋にこもり、家族と口も利かない、孤独感は捨てた。春希には何があっても応援してくれた弟がいた。同じように私の周りには、家族を含め、たくさんの味方が側にいるのだ。私は、その人達のために、そして自分自身の明るい未来のためにも、強く生きていこうと決意した。

現在もまだ、思い通りの生活は送れず、制限のある日々を過ごしている。時には、嫌になって投げ出したくなる日も、どうしようもなく落ち込む日もある。だが、それでも毎日のこの一瞬一瞬を大切に、楽しんで生きている。辛い今だからこそ経験し、得られる何かがあるのだと思う。この経験をし、私は以前よりも、強く前向きになることができた。生きていることには、何かしらの意味がある。自分自身を丸ごと受け入れ、何事にも勇かんに立ち向かっていきたい。全ての事に感謝して、私は今日も歩んでいく。

読んだ本「文豪中学生日記」

銅　賞

手紙から読み取れるもの

飫肥中学校　一年　日髙　結奈

「明日をくれた君に、光のラブレターを」この本は、私が初めて涙を流した本です。題名を見た瞬間にひかれ、手に取りました。

高校生の美月が失恋し、図書室で涙していました。そこではもう一人の登場人物が高校生活最後の一日を迎えていました。病気が原因でその男の子は退学が決まり卒業できずに終わってしまう日々に思いがつのり涙していました。その男の子に美月がハンカチを手渡したことから、二人にとって不思議でかつ重要なやり取りが始まっていきます。二人は夏目漱石の「こころ」に手紙をはさむというやり方で交流を深めていきます。手紙というところが、とても重要になっています。

手紙を書く時は、相手のことを考えながら書いていくと思います。特に男の子の方は一文字一文字にたくさんの思いを込めていました。そのため筆圧に変化があったり、相手をより一層思う時には字が丁寧になったり、力が入りすぎた時は紙にしわがよってしまったりと文章以外の所からでも、読み手は相手の気持ちを推察していきます。手紙を通して、文章だけではなく気持ちも同時に感じとりながら交流を深めていく二人は、互いに思い合う関係へと発展しています。私は、手紙を交換する度に二人の気持ちが変化していく様が読んでいて、とてもおもしろく、目が離せませんでした。

私は普段手紙を書くことはありません。文字で気持ちを伝える機会を考えてみると学校に提出する生活の記録ぐらいです。これは、先生に学校での事や今の私の気持ちを伝えるツールになっています。もちろん先生が読むものですから、誤字がないように気をつけていますし、分かりやすいように考えながら書くようにしています。私の思いに、先生から返事がくるので、直接話をする時間がなくても、自分の考えを聞いてもらえているという安心感を得ることができるので、とても大事なものになっています。また年賀状は一年に一回の交流ですが、日頃会うことができない親せきとの大切な機会になっています。住所や名前を書く時は自分の成長を伝えるためにもゆっくり丁寧に、メッセージを書く時は緊張感が消え少し字体が変わります。相手のことを思いながら文字を書くと、自然に字体が変わっていることに気づかされました。手紙とは書く側も受け取る側も互いに思い合える大切な形の一つなのだと思います。

作品の中では、様々な人間模様が描かれています。親友だと思っている相手にしっとをしてしまったり、異性との友情の形や、それをこえての恋愛感情、互いを認識できていないにも関わらず、芽生える恋愛感情。これらが複雑に交り合い、それぞれ成長していきます。

私もよく学校生活における友人関係について悩む事があります。どうしたら自分の気持ちが伝わるのかなぁとか、相手はどうして気がついてくれないのかなぁ等考えると、どんどん落ち込んでしまいます。気が合う友だ

ちは、話がつきることなく話ができるのに、あまり関わりがない人には、自分から関係を築く努力をする勇気すらありません。周りの人からどう思われているのかを気にしてばかりいる自分がいるのです。私は勇気が出せない分、気の合う友人をもっと大切にしようと思います。そして、自分の気持ちをきちんと言葉で伝えられるような自分になっていければと思います。

この作品には、夏目漱石の「こころ」が作中で登場します。美月とある男の子はこの作品についてもやり取りを交わします。二人は「先生の死」についての解しゃくが違っており、この部分を詳しく知るためにも、私もこころを読んでみたいと思いました。まだ深くは読めていませんが、先生とKという人物がおじょうさんを求めていく中でのかけひきで人を想うがゆえに起きる複雑な気持ちの変化は、「明日をくれた君に、光のラブレターを」でも重なるような気がしました。ある男の子は、実はがんを患っており、死を目の前にしていました。そのため、「死」への捉え方が美月と違っていたのだと思います。感じ方は人それぞれですが、最期の迎え方や大切な人が旅立つ時の気持ちを考えるきっかけになりました。

手紙を通して生まれた人とのつながりは、一人ひとりを成長させていきました。そして思いを通い合わせる中でそれぞれが前を向いて進めるようになり、自分の力で人生を歩んでいきます。私はこの本に出会い、手紙が持つ素敵な力にとても感動しました。悩みながらでも、し

っかり自分と向き合い、一日一日を大切にしていきたいです。

読んだ本「明日をくれた君に、光のラブレターを」

入　選

さよならドビュッシー

吾田中学校　二年　竹下　希香

「えっ!!この人が…」思わず声が出てしまうほど急展開をむかえた衝撃的なラスト…。

私がこの本を読もうと思ったのは単純な理由で、表紙が気に入ったからです。すごく単純な理由で買った本でしたが、まさかこんなにもおもしろいミステリー小説に出会えるとは思ってもいませんでした。

ピアニストを夢に日々のピアノのレッスンに励む遥。火事に遭い生き残ったものの、全身大火傷の大怪我を負い、ピアノを弾くどころか着がえや自分で飲食することもできない状態になってしまいます。一度夢をあきらめ

ますが、ある一人のピアノ教師と出会いピアニストになることを固く誓い、コンクール優勝を目指して猛レッスンを再開します。が、遥の周囲で次々と不吉な出来事が起こり、殺人事件まで発生…というストーリーです。

この本を読んで印象に残った場面と遥みたいになりたいなと思った場面があります。

まず印象に残った場面の一つ目は、全身大火傷の大怪我を負うも自分の夢をあきらめずにピアノのレッスンに励む場面です。自分でトイレやお風呂に入ることもできず、また指すら動かすことができないのにピアノを弾き続ける遥を想像してみると遥にとってピアノを弾くことは遥の生きがいだと思いました。もしも私が遥だったらピアニストという大きな夢をあきらめて、ずっと失望していたと思います。また、全身大火傷の影響で全身の皮膚を移植し、もちろん指も移植しているので指を動かすことはすごく痛くて、ピアノを弾くときの感覚も狂って弾きづらいと思うので私は絶対ピアノを弾こうとはしなかったと思いました。もしかしたら遥も岬洋介というピアノ教師に出会っていなかったら私みたいな考え方をしていたかもしれません。たった一人の人間に出会って人生を変えられたことがすごいと思いました。

二つ目は、殺人事件の犯人が分かったときです。予想もしない展開で、犯人が分かったときはびっくりしておもわず声が出てしまいました。この本を読みながら誰が犯人だろう、なんで殺人という犯行を起こしたのだろうといろいろ考えながら最後まで読むと、それまでの出来

事が全て繋がって納得のいく結末でした。私はこの本を読んで偽りのない本当の私でいることが大切だと思いました。

遥みたいになりたいと思った場面。それは同級生からいじめられてもめげずに毎日学校に通っていることです。全身皮膚の移植をしたため全身包帯でおおわれているので、高校に入学してすぐいじめの対象となってしまいました。でも、そんなことは全く気にせずに強く生きている姿が、とてもかっこ良かったです。気持ちを強く、自分をしっかりもっている遥はすごく尊敬できます。学校に行かなくなってしまいそうになる場面もあり、逃げ出したくなる毎日でもピアニストという夢のためにがんばっている遥を想像すると、私も自分にできることがあればすぐ行動にうつさなければいけないと思いました。そうすれば、自分の夢や願い事を叶えることができると思うからです。

私は、この本を読んで自分の考え方が変わりました。今まではいろいろなことを、マイナスの方向に考えてしまいがちでした。でも、いろいろな視点から自分を見て少しでもプラスの方向へと考えるようになった自分がいます。私は遥のような考え方を見てこんなふうにとらえることもできるのかということに気づけました。最初は遥自身、絶望、恐怖、悲痛などと自分自身をとらえていました。が、それでも自分の大好きなピアノのために、ピアニストの夢を叶えるために、希望を求めてレッスンに励む姿は想像すると改めてすごいし尊敬できます。私

にはまだ遥のような夢がありません。でも、夢が見つかったときのために今から努力することをがんばります。そうすることで、夢に一歩でも近づくことができると信じています。一つ一つの小さな積み重ね、努力が報われると信じて、そして自分を信じて。

読んだ本「さよならドビュッシー」

入選

大事にすべきもの

飫肥中学校　三年　川口　小春

私が選んだ本は、リリーフランキーの「東京タワー」という本である。この本を読むきっかけになったのは、母の知人が数冊の本をくれたことだ。その数冊の本の中にこの本はあった。真っ白な表紙に題名と著者の名前が赤い文字で書かれていた。そんな見た目に惹かれた。

この本は、著者の人生とその中でのオカンに対する思いが描かれている作品である。ボクとオカンとオトンが同じ家で暮らしているところから物語は始まる。その後ボクとオカンは家を出て祖母の家で暮らした。といって

も最終的には、ボクが東京の大学に進学した後に、オカンもそこにきてそのまま息を引き取ってしまうのだが。

私は、そのオカンの最期のときの遺言やボクに初めて明かされたオトンの思いに涙を流した。

この本には、著者が人生を通じて考えた人の存在についても描かれている。また、印象深いものばかりである。

一つは、「自分の個性や判断力を埋没させている姿に貧しさは漂うのである」という言葉である。私はこの言葉から、自分らしさは大切であるということを感じた。貧しさは比較があって目立つそうだ。つまり、それぞれが違った自分らしさを持っていれば比較対象がなくなり、誰も自分を貧しいと思わなくなるのだ。これは金銭面でも精神面でもいえることだ。また、そうなれば今よりも人生を楽しいと思える人がもっと増えるのではないのだろうか。

もう一つ私が印象深いと思った言葉は「能力は成功をもたらしてくれても、幸福を招いてくれるとは限らない」という言葉である。人間の能力に果てしない可能性があっても、その感情は限界が見えているのだという。しかし、これは見方を変えれば、人は能力が無くても幸せになることができるということだ。

現代の社会では、人は能力によってランク付けされ、そのランクが上であればあるほど、「成功した者」として称えられ評価される。果たしてそれが本当に幸福といえるのだろうか。無論、そうなることに幸せを感じる人もいるだろう。しかしおそらくそうでない人の方が多い。

だからこそ、この言葉は多くの人々にとって一筋の光となると思う。また大切にすべきだと思う。

この物語にはオカンつまり著者の母親が多く登場する。著者はこのことについても言及していた。「当然のことながら、そのひとりひとりには家族がいて、大切にすべきものがあって、心の中に広大な宇宙を持ち、そして母親がいる」と。この言葉は著者がオカンを亡くした後、その目を通じて見た大勢の人から感じたことである。そして、この先いつか、或いはすでに、このすべての人たちがボクと同じ悲しみを経験するとも云っている。私が思うこの悲しみというのは、「大切な人を亡くしてしまう悲しみ」だ。著者は大学生のとき、大勢の人がいるその同じ景色を見て「塵、屑、埃」と表現していた。しかし、すべての人が共通の悲しみを経験すると知って「ひとりずつが大きく見えた」のではないかと思う。そして、これこそが著者がこの本を通じて読者に一番伝えたかったことだろう。人は必ず死んでしまう。また大切な人がそうなることが何よりも悲しいことだと。

私は五人家族で父、母そして弟と妹がいる。祖父母もいて友達もいる。私の周りには大勢の人がいるのである。そして、みんな大切である。「どれだけ親孝行をしてあげたとしても、いずれ、きっと後悔するでしょう」と云う上に大切な人が亡くなった悲しみが和らぐ訳でもない。しかし、恩返しをすることは大切な人を大切にし続けるためにも大事なことだ。だから私は、まず両親に今のうちからできることをたくさんしてあげようと思う。

この物語を通じて私が感じたことは、「自分らしさ」「自分で幸せをつかむこと」「大切な人」を大事にすべきということである。このことはこれからも大事になると思うので心に留めておきたい。

読んだ本「東京タワー」

読書感想文の審査を終えて

読書をすると、物語や小説では、主人公や登場人物の生き方や考え方に触れ、日常では経験できないようなことを作中の人物を通して経験します。随筆や論説文では、著作者の考え方に触れることで新たな世界が広がったり、考えが深まったりします。このように、読書は知識や教養が身につくだけではなく、日常に潤いや彩りをもたらし、人生を豊かにしてくれます。

また、読書をすることで、自然と語彙力が磨かれたり、発想力や想像力が豊かになったりして、脳や心を解き放ち、心が癒やされ、前に進む力が湧いてきます。

しかし、「読書感想文を書く宿題が出た」からといって、急に読み始めるのでは少々無理があります。読書を習慣化することが必要ですね。そのためには、次の4つなんてどうでしょう。

1. 読書をする雰囲気を作る。静かな音楽を流したり、スマホなどを音が鳴らないようにして遠くに置くこともよいでしょう。
2. 読む本にこだわらない。読みたい本でかまいません。「中学2年生だから・・・」といった心のハードルも要り

ません。もちろん、「初めから」読まなくても構いません。

3．習慣化する。夕食後の３０分、就寝前の１５分で構いません。

4．余韻を楽しむ。読書によって生まれた感情や心の動きを楽しみます。そして時に、それをメモに残して本に挟んでみる。

読書感想文は、前項の４を広げたものです。書き方にはいろいろありますが、自分がその本を読んで「強く惹かれたこと」や「自分の考え方に強く影響を与えてくれたこと」、「共感できて自分の後押しになったこと」などを書くと良いですね。

人生１００年時代と言われています。皆さんの読書生活は、始まったばかりです。これからも多くの本を読んで、人生を豊かにしていきましょう。

油津中学校　校長　宮元　芳幸

読書感想画入賞作品

【小学校一年生の部】

読んだ本「ようかい村のわくわく夏休み」

金賞　桜ケ丘小学校　山口　稀子

読んだ本「つきよのおんがくかい」

銀賞　油津小学校　西田　彩

読んだ本「ベッドのなかはきょうりゅうのくに」

銅賞　油津小学校　藤丸　朝矢

入選

桜ケ丘小学校　猪俣　諒也

読んだ本「ようかい村のわくわく夏休み」

入選

飫肥小学校　山田　迪奈

読んだ本「にじいろのしまうま」

【小学校二年生の部】

読んだ本「そらのきっさてん」

金賞　油津小学校　小田原 梨織

読んだ本「銀河鉄道の夜」

銀賞　吾田東小学校　吉元 春翔

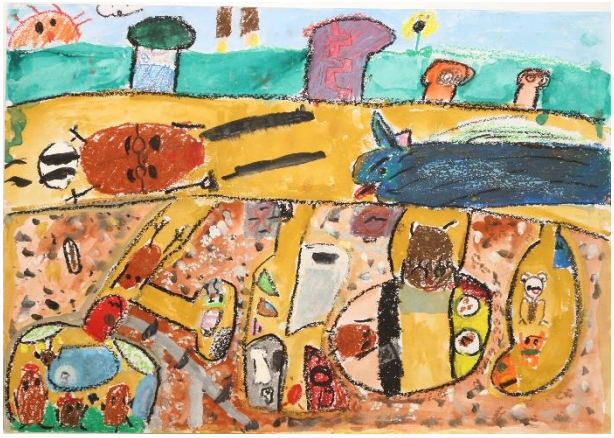
読んだ本「葉っぱにのって」

銅賞　北郷小中学校　由地 恵大

入選

鵜戸小中学校　前田 ひかり

読んだ本「ともだちや」



入選

南郷小学校　下之門 紗和

読んだ本「モグラのモーとグーとラーコ」

【小学校三年生の部】

読んだ本「ミスターワッフル！」

金賞　鵜戸小中学校　塚本　帆来

読んだ本「ほら、ここにいるよ」

銀賞　油津小学校　阪元　美礼

読んだ本「やまたのおろち」

銅賞　吾田東小学校　小倉　麻寿々

入選
潟上小学校　谷口　生眞
読んだ本「ほら、ここにいるよ」

入選
吾田小学校　福嶋　桜香
読んだ本「ほら、ここにいるよ」

【小学校四年生の部】

読んだ本「象のいない動物園」

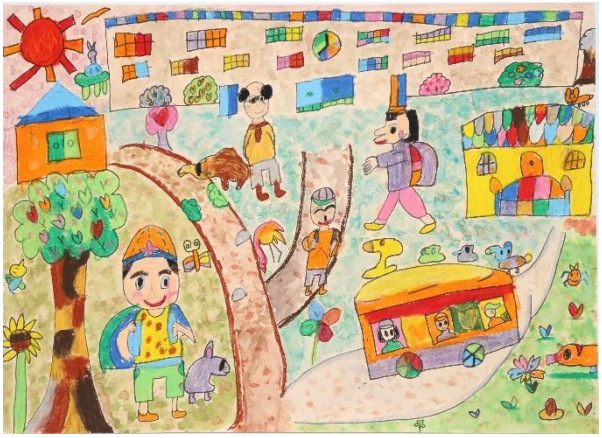
金賞　桜ヶ丘小学校　中島　香后

読んだ本「銀河鉄道の夜」

銀賞　東郷小中学校　山根　希心

読んだ本「ほら、ここにいるよ」

銅賞　油津小学校 甲斐 絢音



入選

大窪小学校 杉田 結愛

読んだ本「しょうがっこうへいこう」

入選

桜ヶ丘小学校　長友 愛莉

読んだ本「おじいちゃんがおばけになったわけ」

【小学校五年生の部】

読んだ本「妖怪コンビニでバイトはじめました」

金賞　油津小学校　井上 心美

読んだ本「わさびちゃんとひまわりの季節」

銀賞　飫肥小学校　髙田 玲緒奈

読んだ本「幽霊屋敷貸します」

銅賞　北郷小中学校 松浦 希心

入選

南郷小学校　河野 太一

読んだ本「モチモチの木」

入選

油津小学校　竹井 柚葉

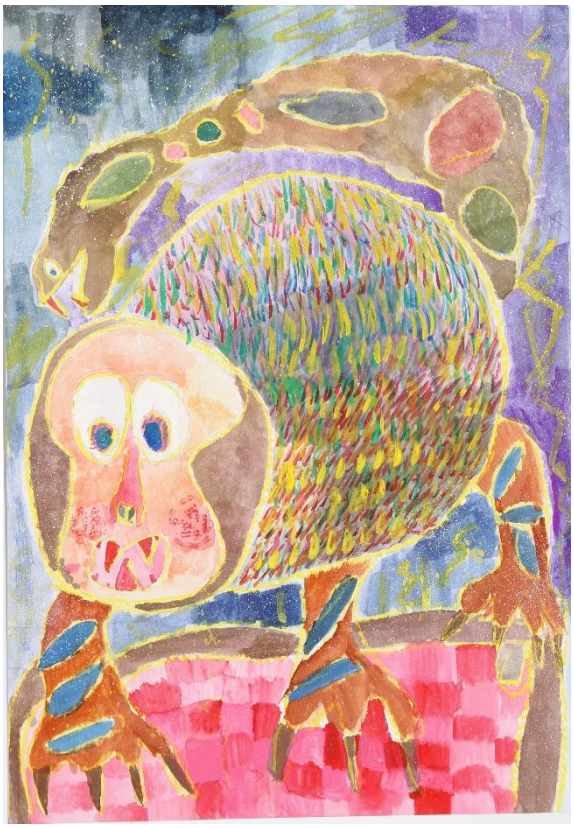
読んだ本「５分後に意外な結末」

【小学校六年生の部】

読んだ本「縄文の狼」

金賞　油津小学校　田中　りこ

読んだ本「3分後にゾッとする話」



銀賞　桜ヶ丘小学校　三浦　璃音

読んだ本「怪盗パピヨン」

銅賞　吾田東小学校 安藤 楓真

入選

飫肥小学校　安藤 隆晃

読んだ本「宇宙への夢、力いっぱい！」

入選

東郷小中学校　池田 柚希

読んだ本「青いスタートライン」

読書感想画の審査を終えて

恒例の日南市読書感想画コンクールに、たくさんのご応募ありがとうございました。

今年は応募の締め切りを昨年までよりも一月ほど伸ばしたためか、最近では最も多い約二百五十点の応募がありました。しかも、描き手が本の世界で感じたことをのびのびと表現した作品、色や表現技法を工夫した作品が多く、大変見応えがありました。

審査は、発達段階を考慮しながら、物語の面白さや楽しさ、感動などが伝わってくるよう構図や技法が工夫されているか等の観点をもとに行われました。

それでは、審査員の先生方の作品の講評を上・下学年部ごとに紹介します。

【下学年（一年生から三年生）の部】

下学年の部は、お話の心に残った場面を楽しく生き生きと描いており、驚きや感動、楽しさが観る側にも伝わってくる作品が多かったです。表現方法も工夫されており、水彩絵の具の特性を活かしたにじみやぼかし、グラデーション、リフティング（塗った所の色を拭き取る技法）、スパッタリング（筆をはじいて絵の具を散らす技法）など多岐にわたるものでした。またクレヨンで描写する際に、線描で黒を使わず、いろいろな色を使うことで、背景との一体感が生まれた作品もみられました。さらに、スタンピングや版画で表現されたものもあり「どんな話だろう。読んでみたいな」と観る者を読書に誘う素晴らしい作品もみられました。

【上学年（四年生から六年生）の部】

上学年の部の作品では、子どもたちの表現の豊かさに感心させられた作品が多かったです。重ねられた線の一本一本や、使われている色一つ一つに子どもたちの表現の豊かさが詰まっており、描くことや想像することの楽しさが伝わってくる作品が多く見られました。中でも、バチックやドロッピング、グラデーションなど、授業で学んだ技法を自分のものにして、効果的に利用している作品が多く、低学年の時からの積み重ねがしっかり活かされていました。今回の審査を通して、形にとらわれず自由に表現する子どもたちの想像力に、私自身もとても勉強になり、今後の授業に活かしていきたいと思いました。これからも視野を広くもって、作品の幅を広げていってほしいと思います。

これからも多くの児童・生徒の皆さんが、読書感想画に取り組むことを通して、読書の喜びと自己表現のおもしろさを味わってもらうことを心から期待しています。

潟上小学校　校長　圖師　宗忠

審査員氏名一覧

宮元　芳幸	油津中学校
津江　聡宏	油津小学校
東　嘉太郎	社会教育指導員
湯淺　安彦	社会教育指導員
米良　照彦	社会教育指導員
榎木田　文生	社会教育指導員
宮脇　隆	社会教育指導員
秋山　俊介	学校教育課　指導主事
圖師　宗忠	潟上小学校
松浦　和枝	飫肥小学校
石塚　賢	北郷小中学校

令和４年度

日南市読書感想文・読書感想画コンクール入賞作品集

第１４集

令和５年２月発行

発行　　日南市教育委員会　生涯学習課

日南市中央通１丁目９番７号

編集　　日南市教育委員会　生涯学習課図書館係

日南市飫肥２丁目６番１８号

電話　　（０９８７）２５－０１５８